

# 感染症

## 相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第11週)

(令和8年3月9日～令和8年3月15日)

令和8年3月19日

定点報告(上段: 定点当たり/下段: 報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		8週	9週	10週	11週	合計		
定点報告	インフルエンザ	18.00	18.67	10.33	6.67	—	—	—
		54	56	31	20	558	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	2.33	1.67	0.67	1.33	—	—	—
		7	5	2	4	91	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	1.00	2.00	1.00	0.50	—	—	—
		2	4	2	1	15	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	2.00	2.00	4.00	—	—	—
		2	4	4	8	39	243	657
	感染性胃腸炎	4.00	4.00	2.50	7.00	—	—	—
		8	8	5	14	93	430	610
	水痘	0.5	0.50	—	0.50	—	—	—
		1	1	0	1	4	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	1.50	0.50	—	—	—	—	—
		3	1	0	0	7	59	182
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	4	19	
流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	1	10	13	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	2	9	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	2	16	1	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	2.00	1.00	—	1.00	—	—	—	
	2	1	0	1	7	42	16	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	—	—	—	2.00	—	—	—	
	0	0	0	2	7	39	19	
新型コロナウイルス感染症(入院)	—	—	1.00	—	—	—	—	
	0	0	1	0	17	56	120	
急性呼吸器感染症(ARI)	73.67	75.67	66.33	51.67	—	—	—	
	221	227	199	155	2,497	8849	—	
全数報告	レジオネラ症	0	0	1	0	1	5	3
	梅毒	1	0	0	0	1	3	6
	百日咳	1	1	0	0	5	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

### 定点把握疾患

**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎** は流行が見られ、**インフルエンザ** は今後の動向に注意が必要です。

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 本県における第11週の定点当たり報告数は13.54と、5週連続で減少しました。警報は継続中です。B型が約9割を占めており、今シーズンで既に感染した方も再感染する可能性があるため、注意が必要です。インフルエンザウイルスに感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。引き続き感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 直近2年間の同時期より低い水準にあるものの、他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
レジオネラ症	本県で2例の報告がありました。 昨年の同時期と比較して報告数が多い状況です。レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、慢性疾患や加齢等で免疫機能が低下した方や喫煙、大量飲酒者は、肺炎を生じ重症化するリスクがあります。乾燥土壌の土埃等、菌を含むエアロゾルからの感染が多いので、マスク、手洗い等の感染対策を行いましょう。
結核	本県で6例の報告がありました。 第2週から報告が続いており、昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業主や高齢施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施しまししょう。

3月に入り、会食や人の移動が増える時期を迎えます。引き続き急激な感染拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど体調管理に留意することや、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第11号